

畑田美智子作品集出版記念・受賞祝賀会

6月パリセーヌ通りのギャラリーで個展を開いて評価を得、9月には日本で第1回になる「エミール・ガレ賞」を受賞、これらの作品の集大成となる「畑田美智子作品集」―自然から生まれた美の結晶たち―を出版、またチャトリーチャラーム王子殿下より「白象賞」を受賞、こ



れらを記念して平成25年11月2日(土)千里阪急ホテルで出版記念と受賞の祝賀会を開催した。11時、先ず、小南修身池田市長の挨拶に始まり、美術評論家長谷川栄先生のメッセージを紹介したのち、パリでの個展を企画・運営した美研



インターナショナルの瀧部長よりスライドによるパリ個展の報告がなされた。

次いで、12時、安部羽曳野副市長の乾杯で宴席がスタートした。

ブルガリア国立ソフィアフィルハーモニーの客員指揮者の守山俊吾氏が「マイ・ウェイ」を歌い、ピアノとフルートの演奏を聞きながら、ご馳走と飲み物をいただきつつ楽しい会話が弾んだ。





13時スピーチが始まった。大阪市立大学名誉教授中島廣子先生、二期会の上田保画伯、大阪市議会議員辻義隆氏、大阪市経済戦略局観光部観光部長森幹雄氏により、それぞれ思いを込めたお話しがあり、時間は予定よりもかなりかなり長くはなったが、有意義な1時間であった。



その後、花束贈呈と西澤良記大阪市立大学学長のお礼と閉会の挨拶で集まりを終了した。ご出席の皆様方は、名残を惜しみつつ写真を撮ったり話合ったりで、雰囲気はいつまでも高潮していた。



御挨拶と御礼 畑田美智子



お世話になった皆様と

このたびは皆様それぞれご多用のところ私の作品集出版記念・受賞祝賀会にご参会いただきましたことここに改めて感謝申し上げます。作品集は集大成というほどではなく、この一冊で今迄の大体の私の作品をイメージしていただけるものと思い制作しました。開きやすく読みやすい上質版に製本されていますので、どうぞ、おくつろぎの時にでもゆっくりとご覧くださいませ。ご出席いただきまして、いかがでしょうか。今日ひと時楽しく心安らかにすごし、癒される空間を感じていただければ幸いです。今後ともご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。 畑田美智子

「エミール・ガレ百年後の快挙」

大阪市立大学大学院文学研究科名誉教授 中島廣子

畑田美智子様には、日本を代表するガラス工芸家として、パリでの個展のご成功をはじめ、「エミール・ガレ賞」やタイ王国「白象賞」のご受賞など、華々しいご活躍に対し心よりお喜びを申し上げます。

パリでの個展に先立ち、折よく私も渡仏する機会があり、下見かたがた会場となる「エチエンヌ・ドゥ・コーザン画廊」を訪れてみました。そこでオーナーから、画廊の展示方針が「国際的であること」との説明を受けました。つまり、展示の対象となる優れた作品が広く世界中から選ばれると同時に、それらにはグローバルな評価に耐える高度な芸術性が求められる、という意味でありましょう。この時、「日本のエミール・ガレ」と呼ばれる畑田様と、その名称のもととなった「フランス世紀末芸術の巨匠」ガレの作品の特徴が、まさにその「国際性」にあることに気付かされました。

ガレが活躍した世紀末のパリでは「万国博覧会」が頻繁に開かれるなど、西洋の伝統文化と様々な異文化との幸運な出会いがありました。ことに、日本の洗練された美的感覚が新鮮な驚きをもって受け入れられ、「ジャポニスム」の一大流行をみたことは周知の通りです。なかでもガレは、ガラスという西洋的素材と、自然や虫といった東洋的・日本的モチーフを巧みに融合させ、独自の境地を切り開くことに成功しました。そして、これより百年後の日本で、その豊かな自然から想を得た多彩なイメージを美的に結晶させ、ガラス工芸による大輪の花を咲かせて下さったのが畑田様なのです。

さらにガレと畑田様の共通点は、作品に込められた「精神性」にもあります。なぜならガレは、それまで絵画や彫刻より劣るとされていた応用芸術を、作者の「思想」を伝える表現手段としての地位にまで高めたのです。畑田様もまた創作に当たっては、「天命により行う」とされておられます。このように、作家が確固たる精神的基盤に立ってメッセージを発信してこそ、はじめて国境を越えて人々の感性に訴えかけ、万人の心を震わせることが可能になるのです。そして、それが真の意味での「国際性」に通じるのではないのでしょうか。どうかこの上とも、世界の人々に「美しきもの」にふれるという、大いなる喜びをお与え下さるよう願ってやみません。

畑田美智子様のガラスアート作品に接して

関西大学名誉教授 浜中 佐和子

今秋(2013年)は、10月入っても夏日が多く、台風や台風接近による大雨などで、小春日和の日は少なかった。この数少ない秋日の11月2日の土曜日に「畑田美智子出版記念・受賞祝賀会」が盛況に行われた。

畑田美智子様の笑顔で迎えられて会場に入ると、周囲に調和よく置かれた作品に引き寄せられた。作品の下の敷物は選び抜かれた脇役で、主役の作品を引き立てていた。

畑田美智子様の作品は、日本の四季の生物や自然を日々観察されて製作されており、観

ていると穏やかさが心に浸透してくると共に、私は力強さを感じる。この理由がやっと解った。ガラス中の気泡などもそのまま取入れ、作品中で役割を与えておられるとのこと。この思考で、細やかな気配りをされながら失敗も怖れず被せガラスをサンドブラストされるためか、細い線でも勢いがある。

例えば、滝などでは水が勢いよく落下しており、自然界と同じように感じる。他の方々の作品では、線が繊細に美しく削り掘られていても、弱々しくてガラス製品だと感じることが多い。

特に、ランプや行燈などの照明作品では、希望と勇気が湧いてくるので、見入ってしまう。今回の展示では、被せガラス板を使用した作品「曙」に目が留まった（この時は作品名が「曙」とは気付かなかったのであるが）。下部から柔い光が当たり、湖、富士山、空へと広がっている。見る角度によって主役が異なり、手前の木々なども含めて宇宙へとつながり、富士山を中心にして何とも言えない情景が広がっていた。

心豊かな気分酔いながら退室する時に記念品として頂いた「畑田美智子ガラスアート作品集」を早速、ロビーの椅子に座って開いてみた。最後の作品に「曙」が掲載されている。しかし、会場内で観たイメージとは全く異なっており驚いた。家で落ち着いてもう一度ゆっくり実物を思い描きながら作品集のページをめくり、最後のガラス絵は「曙」と命名されているのに気付いた。

「枕草子」が浮かんだ。「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少し明りて、紫だちたる雲の細くたなびきたる」。この情景が作品集の写真「曙」で確認でき、畑田耕一先生の写真技術に私は助けられた。また、この作品の左上のサイン MH の組み合わせ（工房のシンボルマーク）が、ご主人耕一先生のご専門である化学記号のベンゼン環（俗に亀の甲と言われている）に私には見え、ほほえましく思っている。

畑田ご夫妻は「日本の美」を後世に残される活動を続けておられ、お二人の遺伝子を受け継がれたご家族もそれぞれご活躍とのこと、畑田美智子様こそ、日本が目指す男女共同参画社会のオピニオンリーダーだと思っている。

畑田美智子ガラスアートに感じたこと

大阪大学名誉教授 蒲池幹治

ガラス作品の醸し出す華麗な雰囲気は、欧米人の感覚にあった芸術作品と捉えていたが、畑田美智子さんの作品には、作品の華麗さだけでなく、日本文化、日本の四季を取り入れたストーリーがあり、それが個性豊かなガラスアート展となっている。

ガラス工房をはじめられて13年という短い期間に、独自のガラスアートの世界が広がっている。池田のギャラリーで個展を開かれて以来、関西で開かれた個展に出席して、目を楽しませて戴いているが、その個性豊かな作品に、畑田美智子さんの非凡な潜在能力を感じた人は多いのではないだろうか。円熟された今回の作品を鑑賞している内にふと非凡な潜在能力のルーツを垣間みた感じがした。

それは、芸術の中に科学性を取り入れた作品の設定である。本来、芸術は主観的であり、科学は客観性に価値を求める。しかし、松尾芭蕉は俳句という芸術に少し違った見方をし、「虚にいて、實を扱う」という言葉を残している。自然科学者も、「虚にいて、實を扱う」点においては、同じ哲学が感じられる。今回の作品を見ながら、「日本の自然から生まれた、美の結晶たち」というタイトルに、俳句に繋がる芸道として、松尾芭蕉の言葉を思い出しながら鑑賞した。そんな気持で鑑賞していると、非凡な潜在能力が見えてくる。

美智子さんの御父君は、物理学で有名な沢田昌雄先生(大阪大学名誉教授)である。兄上も自然科学者であり、幼少の頃から、自然科学的感覚で物を見る目が育まれていたのであろう。ご主人は、高分子合成で、新たな道を拓かれた畑田耕一先生(大阪大学名誉教授)である。これらのかたがたから暗々裏に受けられた感化が、美智子さんの豊かな感性と共鳴し、日本の文化・風景に根ざした芸風に繋がっていると感じながら会場を出た。

自然を愛する人は心優しい人です

税理士法人 For you 税理士 関谷洋子

自然を愛する人は心優しい人です。

自然を受け止めることのできる人は心豊かな人です。

心豊かな人は物を大きくとらえ、広い所を見ます。

心貧しい人は手元、足元しか見ません。

畑田美智子さんの作品をみていると心優しい、心豊かな方だということがわかります。

普通、ガラスは触ると冷たいと思いますが、美智子さんの作品には温もりを感じます。

その優しさ、温もり、スケールの大きさの源は何でしょう。

それは家族愛、夫婦愛だと思うのです。

11月2日の和やかな会で感じたことは、「尊敬しあっている御夫婦は美しい」ということです。

精神的に自立している御夫婦が互いに寄り添っていることほど素晴らしいことはありません。

仲の良い、美しい御夫婦に乾杯！！